

平成27年度
群馬県図書館協会会報

No. 10 (平28.3.31)

平成27年度の群馬県図書館協会の活動を御報告いたします。

- 1 第1回代議員会報告 P1

- 2 第13回群馬県図書館大会報告 P2～4

- 3 研修報告 P5～9
 - (1) 図書館(室)職員初級研修 P5～6
 - (2) 第1回図書館(室)職員実務研修 P7
 - (3) 第2回図書館(室)職員実務研修 P8
 - (4) 第3回図書館(室)職員実務研修 P9

- 4 各加盟団体活動報告 P10～13
 - (1) 群馬県公共図書館協議会 P10
 - (2) 群馬県高等学校教育研究会図書館部会 P11
 - (3) 群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会 P12～13

発行：群馬県図書館協会（事務局：群馬県立図書館内）

加盟団体

{	群馬県公共図書館協議会
	群馬県大学図書館協議会
	群馬県高等学校教育研究会図書館部会
	群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会
	群馬県立図書館

第 1 回 代 議 員 会 報 告

平成 27 年 6 月 5 日（金）、県立図書館 3 階研修室において、各団体の代議員出席のもと、群馬県図書館協会の第 1 回代議員会が開催されました。

はじめに、中山会長（群馬県立図書館長）の挨拶があり、引き続き議事に入りました。

議 題

1 群馬県図書館協会関係

- (1) 平成 26 年度群馬県図書館協会事業報告について
- (2) 平成 26 年度群馬県図書館協会決算について
- (3) 平成 26 年度群馬県図書館協会会計監査報告について
- (4) 平成 27 年度群馬県図書館協会事業計画（案）について
- (5) 平成 27 年度群馬県図書館協会予算（案）について

2 群馬県読書推進運動協議会関係

- (1) 平成 26 年度群馬県読書推進運動協議会事業報告について
- (2) 平成 26 年度群馬県読書推進運動協議会決算報告について
- (3) 平成 26 年度会計監査報告について
- (4) 平成 27 年度群馬県読書推進運動協議会事業計画（案）について
- (5) 平成 27 年度群馬県読書推進運動協議会予算（案）について

3 監事の指名について

高崎経済大学図書館 内田 睦 氏

4 第 13 回群馬県図書館大会の開催について

事務局から提出され承認されました。

第13回 群馬県図書館大会報告

未来につなげる図書館 ―今、図書館ができること―

日 時：平成27年11月26日（木）10時～16時30分

場 所：藤岡市みかぼみらい館

日 程：

1 式典（10：00～10：30）（小ホール）

- (1) 主催者挨拶 群馬県図書館協会長
中山 勝文（群馬県立図書館長）
- (2) 来賓祝辞 藤岡市長
新井 利明
群馬県教育委員会教育長（代理）
佐藤 喜治（群馬県教育次長）
藤岡市教育委員会教育長
田中 政文
- (3) 後援・加盟団体紹介〔略〕
- (4) 表彰式
 - ①優良図書館群馬県教育委員会表彰 館林市立図書館
 - ②群馬県読み聞かせボランティア顕彰
 - ・絵本とおはなし たんぽぽの会（伊勢崎市）
 - ・絵本の森（高崎市）
 - ・藤岡市小野小学校 おはなしの会「きらきら」（藤岡市）
 - ・とうぐみの会（邑楽町）
 - ・田子 智代（前橋市）
 - ・甲原 順子（明和町）
 - ③優良読書グループ表彰伝達 おはなしの会「おたまじゃくし」（藤岡市）
 - ④全国公共図書館協議会表彰
橋爪 文夫（群馬県立図書館）
野口 幸男（元・群馬県図書館協議会員）（欠）



2 記念トーク（10：30～12：00：小ホール 参加者224名）

「本を巡る旅 ～読むこと書くこと～」

北村 薫（作家）

《概要》

昨年三月に出版された27年ぶりの「私と円紫さんシリーズ」最新作『太宰治の辞書』で群馬県立図書館が重要な役割を果たしたご縁で、作者の北村薫先生にお越しいただき、お話をうかがった。

お話の中で北村先生は「太宰の妻である津島美知子さんは、太宰が『女生徒』という作品を書いた頃に使っていた辞書は『掌中新辞典』であったと記している。『掌中新辞典』は実用品なので情報があまり残っていない。

いろいろ検索していった結果、これが群馬県立図書館にあった。驚いた。群馬であれば行ける範囲で、手に取ることができる。それで去年、『太宰治の辞書』の中に書いてあるとおり、取材で前橋に来た。群馬県立図書館にお世話になってからひとつの展開があって、太宰治が使っていたのと同じ辞書で表紙のあるものに巡り会えた。もし『太宰治の辞書』を書き始めた頃すぐに『掌中新辞典』に出会えていたら、私は群馬に来ることはなかっただろう。そうなる結果的に話が浅いものになる。辞書に出会えたのが物語としては良かったと思う。私の友達が物語を書いていたのと近い頃に亡くなられた。群馬の方で、もう50年も前になるが「群馬といえば焼きまんじゅうだよ～」なんて言って、焼きまんじゅうを買ってきて振る舞ってくれたことがあった。彼が亡くなって、そのことを思い出した。群馬県立図書館に『掌中新辞典』があったことに運命を感じた」と話された。

また、読むということについて、「読むという作業は非常に大きな創作だ。『あなたの趣味はなんですか？』と聞かれて『読書です。』と答えると能動的でないと思われがちだが、読書というものは受動的なものではなくて、非常に豊かな生産活動だ。読まれることによって作品が完成してゆく。ひとつの体験によって自分の中の物語が成長する。それが『読むこと』の醍醐味である。目で活字を追うことだけが『読む』ということではないということだ。」と話された。

北村先生のお話は作品を読んでいない方も楽しめる素晴らしい内容で、聴講した方々からは「とても興味深く、楽しかった。有意義な時間を過ごすことができた。」「執筆や幼少期のエピソードから北村先生の穏やかな人柄が伝わり、身近に感じた。」「進行がテンポ良く、北村先生のお話をうまく引き出せておもしろかった。」「近著から過去の作品まで創作の秘密が垣間見えて興味深かった。」等の好意的な感想が多く出された素晴らしい記念トークであった。



3 テーマ別分科会（13：00～16：30）

（1）第1分科会（第1・2研修室 参加者67名）

図書館の基本理念から選書を考える

～図書館は何を収集し、どう提供していくのか～

元・江東区立深川図書館次長の西村彩枝子氏から「『絶歌』を通して、図書館のあり方を考える」と題し、図書館の使命や基本理念について「選書」の視点からお話をいただいた。その後、「図書館資料収集に係るアンケート」の結果に続いて、西村氏、渋川市立図書館の真庭貴恵子氏、高崎健康福祉大学図書館の井ノ口雄久氏、群馬県立渋川高等学校の宮崎好久氏をパネリストに、群馬県立図書館の市村晃一郎氏をコーディネーターに迎え、図書館の図書館や学校図書館における「選書」についてのパネルディスカッションを行った。



参加者からは、「とても参考になった」、「とても勉強になった」、「選書の難しさを感じた」、「本来の図書館のあり方について考えさせられた」、「自校に戻ってから選書の基準を係で検討したいと思う」等の意見が寄せられ、大変有意義な分科会であった。

（2）第2分科会（ギャラリー 参加者67名）

人を惹き付ける図書館の魅力とは

～地域を繋ぐ図書館づくり～

筑波大学図書館情報メディア系教授の逸村裕氏から「若者の情報行動そして図書館活動」と題し、社会の変化につれて図書館への学生のニーズが多様化していくことに対して、図書館側が対応していくことの必要性についてのお話をいただいた。また、埼玉県立春日部女子高等学校主任司書の木下通子氏から「本を通して地域とつながろう ～『埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本』から見えてきたもの～」と題し、イチオシ本を通して各地とつながっていく取組について話された。次に事例報告として沼田市立図書館の生方志保氏から「沼田市立図書館の取り組み」と題し、移動図書館、ブックスタートなどの取組について話された。質疑応答、パネルディスカッションを行った。



参加者からは、「興味深く、勉強になった」、「今時の大学生についての意見がおもしろかった」、「埼玉の高校図書館司書さんのパワーに驚いた」、「大学、高校、公共図書館それぞれの取組が聞けて興味深かった」等の意見が寄せられ、大変好評であった。

平成27年度 図書館（室）職員初級研修「はじめの一步」

日時：平成27年4月25日（金）10時～16時

場所：群馬県立図書館3階研修室

参加者：81名

講義：講義①「ようこそ図書館へ」

割田弘美氏（みどり市大間々図書館）

講義②「図書館資料について」

岡村晴代氏（太田市立新田図書館）

講義③「県立図書館と市町村立図書館」

橋爪文夫氏／市村晃一郎氏（群馬県立図書館）

講義④「レファレンスははじめの一步」

永井 宝氏（富岡市立図書館）

講義⑤「図書館の危機管理」

中沢孝之氏（草津町立図書館）

グループ討議

《概要》

群馬県図書館協会加盟各館（室）に、新規採用された職員、異動した職員及び経験1年未満の職員を対象として、日常的な図書館業務及び図書館運営の基礎知識について理解を深めるために開催した。

参加者は、図書館経験のない人や浅い人が多く、図書館の基礎的な事柄を広く学び、利用者により良いサービスを展開してもらうためのきっかけをつくってもらうことを第一に考え、できる限り、実務に活用できるような研修内容を考えた。

研修後のアンケートに関しても「参考になった」という意見がほとんどであり、評価は非常に高かった。但し、学校図書館の参加者にとっては、公共図書館に力点を置いた内容が多く「学校図書館の内容の充実」を求める声があったことを挙げておく。次回以降、大学図書館、学校図書館の参加者が研修で満足できるようなものも考えることが課題である。

《参加者の意見等》

- ・初めての図書館で右も左も分かりませんでした。「はじめの一步」の研修で、色々な話が聞けて良かったです。勉強になりました。
- ・基本的な知識を改めて知る良い機会になったと思います。他館がどのような事業、サービスを行っているのか、県立図書館のしくみ等が理解でき良かった。
- ・図書館勤務1ヶ月の新人です。基本的なこと、心がけを教えていただき本当に勉強になりました。分からないことが分からないという状況なので勉強になりました。図書館で働く高い意欲がでてきま

した。

・学校図書館と公共では違う事も多いと思いましたが、主体はあくまでも利用者（児童）だということが一番を考えて頑張りたいと思います。子どもたちの好奇心に応じてあげられる図書室を目指したいと思います。ありがとうございました。

・公立と学校図書館に携わる人とは分けて研修があると良いと思いました。やはり方向性が違うので、（今回の研修は）あまり役に立たないと思いました。個人的にはとても良いお話でこれからの自身の図書館利用（活用）に広がると思いました。

・講師の話がとても分かりやすく、初心者の私でも理解を深めることができました。これから図書館業務に活かしていこうと思います。このような機会を設けていただきありがとうございました。

第1回図書館（室）職員実務研修

日時：平成27年6月25日（木） 10時～16時

場所：群馬県立図書館 3階 ホール（①講義、②講義・実習） 調査相談室（②実習）

参加者：92名（講義①86名、講義②47名）※参加者は実人数

講義：①講義「日本十進分類法 新訂10版について」

大曲 俊雄 氏（日本図書館協会分類委員）

②講義・実習「図書館における資料保存」

村上 直子 氏・植原亜莉菜 氏（国立国会図書館 資料保存係）

《概要》

①講義「日本十進分類法 新訂10版について」

講師：大曲 俊雄（日本図書館協会分類委員）



「日本十進分類法 新訂10版」が刊行されてから半年ということもあり、定員を大きく超える方々が参加した。日本十進分類法の新設や変更についてのいきさつやその背景まで、具体的な事例を交えながら分かりやすく講義していただいた。

《参加者の意見等》

「実際に改訂に関わった方に解説していただいたのは貴重な体験となった」、「新訂10版の変更点がよく分かった」、「細やかに説明していただき分かりやすかった」など好評であった。

《概要》

②講義・実習「図書館における資料保存」

講師：村上 直子・植原亜莉菜（国立国会図書館 資料保存係）

図書館における資料保存についての概要をお話しいただいたあと、2つの班に分かれ、和紙を用いた修繕の実習を行った。

《参加者の意見等》

「これまで試行錯誤で行っていたので、大変参考になった」、「実際にやってみることで色々な発見があり、とてもよく理解することができた」、「丁寧に教えていただき、よく分かった」など、すぐに役立つ内容であったという意見が多かった。



第2回図書館（室）職員実務研修

日時：平成27年9月25日（金） 10時～16時

場所：群馬県立図書館 3階 研修室

参加者：79名（③講義45名、④講義43名、⑤講義62名）※参加者は実人数

講義：③講義「学校支援を充実するために」

加藤 寿生 氏（群馬県立図書館 地域協力係）

④講義「地域史料の保存と活用」

鈴木 一哉 氏（群馬県立文書館 古文書係）

⑤講義「利用者とのコミュニケーションを考える

～レファレンスインタビューを中心に～」

齊藤 誠一 氏（千葉経済大学短期大学部 教授）

《概要》

③講義「学校支援を充実するために」

講師：加藤 寿生（群馬県立図書館 地域協力係）

学校教育において重要な位置を占める学校図書館（図書室）。公共図書館として何ができるのか。何をしていかななくてはならないのかを、教員の経験に基づき、具体的に講義していただいた。

《参加者の意見等》

「分かりやすい説明で知りたいことが分かった」など、公共図書館の学校支援について理解できたと好評であった。



《概要》

④講義「地域史料の保存と活用」

講師：鈴木 一哉（群馬県立文書館 古文書係）

各図書館が所蔵する地域史料の保存やその収集、教材としての原資料の活用や学習支援の方法などについて、実際に古文書を読み解きながら講義をしていただいた。

《参加者の意見等》

「普段なかなか触れることのない古文書について知ることができた」など地域史料の活用について勉強になったという意見が多かった。



《概要》

⑤講義「利用者とのコミュニケーションを考える ～レファレンスインタビューを中心に～」

講師：齊藤 誠一（千葉経済大学短期大学部 教授）

レファレンスの入口であるレファレンスインタビューを中心に、すぐに活用できるようレファレンスの事例を交えて、講演していただいた。

《参加者の意見等》

「レファレンスの流れが分かりやすく実践的のためになった」、「今日の研修を生かし、利用者さんが気持ちよく利用できるよう日々がんばっていきたい」といった意欲的な意見が多数寄せられた。



第3回図書館（室）職員実務研修

日時：平成27年12月18日（金） 10時～16時

場所：共愛学園前橋国際大学 4号館 2階 4202・4205室

参加者：57名（⑥講義35名、⑦講義46名、図書館見学33名）

講義：⑥講義「図書館における障害者サービス」

佐藤 聖一 氏（埼玉県立久喜図書館）

⑦講義「アクティブ・ラーニングとは

～図書館が果たすべき役割を考える～」

後藤さゆり 氏（共愛学園前橋国際大学 教授）

図書館見学「県内の図書館を知ろう！ 第4回 共愛学園前橋国際大学図書館」

川上 あい 氏（Kyoai COMMONS コンシェルジュ）

深澤 静子 氏（共愛学園前橋国際大学図書館司書）

《概要》

⑥講義「図書館における障害者サービス」 講師：佐藤 聖一（埼玉県久喜図書館）



障害者サービスを「すべての人の図書館利用を保障する」基本業務とし、障害者サービスの理念・基本的な考え方や具体的なサービスについて講義をいただいた。

《参加者の意見等》

「普段から心がけているつもりだったが、配慮が足りなかったことに気づかされた」、「どのようなサービスをどこまで行ったらよいか悩んでいたが、分かりやすく話していただき理解できた」など障害者サービスについてよく分かったと好評であった。

《概要》

⑦講義「アクティブ・ラーニングとは ～図書館が果たすべき役割を考える～」

講師：後藤さゆり（共愛学園前橋国際大学 教授）



今、教育現場で広がりつつあるアクティブ・ラーニング。アクティブ・ラーニングにおいて重要な位置を占める図書館の役割について、実例をあげながら分かりやすくお話しいただいた。

《参加者の意見等》

「アクティブ・ラーニングの手がかりについて分かりやすく説明していただき、とてもありがたかった」といった感想など漠然としたイメージだったアクティブ・ラーニングについて理解が深まったという意見が多数寄せられた。

《概要》 図書館見学 「県内の図書館を知ろう！ 第4回 共愛学園前橋国際大学図書館」

普段なかなか見ることができない大学図書館と共愛学園前橋国際大学の特色でもあるラーニングcommons専用学舎「Kyoai COMMONS」を見学した。

群馬県公共図書館協議会児童・青少年サービス研究部会研修

日時 平成 28 年 2 月 24 日（水）午後 1 時 30 分～4 時

会場 吉岡町文化センター

参加者 41 名

内容 講義 「児童・青少年サービスを考える～菊陽町における児童・青少年サービスの取り組み」

講師 高倉暁大氏（菊陽町図書館）

概要

群馬県公共図書館協議会の各研究部会では、県内市町村立図書館（室）職員の資質向上並びに市町村図書館（室）の情報交換、交流を目的として研修を実施している。本年度は研究部会員からアンケートを行い、熊本県菊陽町図書館における青少年サービスの実践事例を聞きたいという意見が出され、児童・青少年サービス研究部会が中心となって開催を企画したところ、同町図書館職員の高倉氏をお迎えして研修会を行うことができた。

講義内容

菊陽町は熊本市のベッドタウンとして若い家族を中心に近年人口が増えており、菊陽町図書館でも子どもの利用が多く、そのため児童・青少年サービスに力を入れている。一方で中学生になると部活動などで余暇時間が少なく、図書館利用が減る傾向にある。中学生の図書館利用を促すきっかけとして、図書館員が中学校に出向きテーブルゲーム大会を行った。単にゲームをするだけでなく、関連図書を展示し紹介することにより、生徒の読書への興味を喚起した。また、図書館を会場に、青少年層に人気の地元出身作家作品に限定したビブリオバトルを開催した。担当職員のやりくりや必要物品の準備など課題があるが、行事への参加をきっかけに図書館の継続的な利用につながったと、取り組みの成果がみられるとのことであった。

参加者の声（主なもの）

斬新な切り口のイベントは、おおいに参考になった。（同様意見多数）

自分の図書館でも取り組めそうなイベントがあったので、実践したい。

図書館は「何でもできる」ところだと思った。

講師の情熱的な講義と、バイタリティある実践に力づけられた。

講師は非常勤職員とのことだが、待遇面はどうなのか気になった。

研修について

2月下旬と年度の押し詰まった開催にもかかわらず予想を超える参加者があった。一方で、県立図書館が耐震工事中で利用不可ということもあり、研修会場確保に苦労した。開催時期や会場選定などは次年度の課題とし、適切な時期と会場での開催に努めたい。

群馬県高等学校教育研究会図書館部会

1 総会及び講演会 平成27年5月1日(金) 群馬県総合教育センター

- (1) 諸報告
- (2) 司書研修会全体報告
- (3) 講演会
講師：篠木 れい子 氏(群馬県立土屋文明記念文学館長)
演題：「私の宝物一心に響くことばー」

2 司書研修会

〈第1回〉平成27年7月13日(月) 群馬県総合教育センター

分科会研修(9分科会に分かれて研修を行う)

- ①群馬県高等学校図書館の歴史
- ②CASA110番
- ③「読書週間」活用法
- ④授業に活かす学校図書館～司書からのアプローチ～
- ⑤著作権Q&A
- ⑥利用者教育
- ⑦分類
- ⑧群馬県高等学校図書館チェックリスト
- ⑨初心者研修

〈第2回〉平成27年10月27日(火) 群馬県総合教育センター

(1) 分科会研修(9分科会に分かれて研修を行う)

- ①群馬県高等学校図書館の歴史
- ②CASA110番
- ③「読書週間」活用法
- ④授業に活かす学校図書館～司書からのアプローチ～
- ⑤著作権Q&A
- ⑥利用者教育
- ⑦分類
- ⑧群馬県高等学校図書館チェックリスト
- ⑨初心者研修

(2) 講演

演題：「学校司書の職務と役割について～『学校図書館法』改正～」

講師：太田 克子 氏(群馬県立藤岡中央高等学校 司書専門員)

(3) 分散会研修(AとBに分かれて研修を行う)

分散会A「学校図書館における『学校司書』の職務と役割を考える」

分散会B「生徒や教職員に本を読んでもらうための方策」

B-①新書の貸出を増やすには？

B-②「ビブリオバトル」知っておきたいこと

B-③ポップ・本の帯

B-④読書会の方法

B-⑤どんな時に本を読みたくなるのか、考えてみよう

3 冬季研究大会並びに講演会 平成28年2月10日(水) 共愛学園前橋国際大学

(1) 読書感想文、読書感想画表彰式及び講評

(2) 司書研修会分科会報告

(3) 講演会

講師：大江 輝行 氏(自由の森学園 図書館司書)

演題：「学校図書館のめざすものーランガナタン、竹内 愼先生に学びつつー」

(4) 研究協議分散会

・「多野藤岡地区図書委員研修会の取り組み」

発表者：矢島 明 氏(群馬県立藤岡工業高等学校 教諭)

岩崎 智映 氏(群馬県立藤岡工業高等学校 学校司書)

・「安中・富岡・甘楽地区の研修で行っている取組について」

発表者：大谷 邦子 氏(群馬県立下仁田高等学校 教諭)

・「ビブリオバトル ～3年間の実践の成果と課題～」

発表者：柏木 彰子 氏(群馬県立富岡高等学校 司書専門員)

平成27年度群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会

- 1 総会並びに幹事会 平成27年6月3日(水) 館林市郷谷公民館
- 2 研究員会
 - 【第1回】 平成27年6月23日(火) 館林市郷谷公民館
 - テーマの決定：小学校「学校図書館の活用と読書活動の充実を目指して」
 - 中学校「図書館の利用指導の工夫」
 - 【第2回】 平成28年1月13日(水) 館林市郷谷公民館
 - 研究実践集録の作成並びに情報交換
- 3 第33回関東地区学校図書館研究大会(東京大会)
 - 平成27年8月6日(木)～7日(金) 会場：なかのZERO等
 - ・大会主題「確かな学力と豊かな人間性をはぐくむ学校図書館」
 - ～学習センター・情報センター・読書センター機能のさらなる充実をめざして～
- 4 群馬県学校図書館研究協議会(西毛大会)
 - 平成27年8月19日(水) 会場：藤岡市民ホール
 - ・研究主題「言語能力の育成と学校図書館の活用」
 - 提案1「読みの力を高める図書館読書指導」
 - ～「第一小の100さつ」と「読書郵便」等を通して～
 - 藤岡市立藤岡第一小学校 教諭 清水 静子
 - 提案2「生涯にわたる読書習慣を身につけるために」
 - ～3年間を通して行う西中「ワタシの一行」を通して～
 - 藤岡市立西中学校 教諭 篠崎 巧
 - 記念講演「図書館へ行こう」
 - 講師 藤岡中央高校 司書専門員 太田 克子 様
- 5 第61回青少年読書感想文全国コンクール群馬県審査会
 - ・審査会 第1回 10月21日(水) 館林市郷谷公民館
 - 第2回 11月12日(木) 館林市郷谷公民館
 - ※小学校(低・中・高)、中学校の各部より各2点、計8点を県代表作品として「全国コンクール」へ出品
 - ※〈小学校中学年 課題読書〉の部で、高崎市立新高尾小学校 町田佳奈美さんが「全国学校図書館協議会長賞」を受賞
- 6 第27回読書感想画中央コンクール群馬県審査会
 - ・県審査会 平成28年1月14日(木) 館林市郷谷公民館
 - ※小学校(低・高)、中学校の各部より各4点、計12点を県代表作品として「中央コンクール」へ出品
- 7 部会誌「学校図書館56号」
 - ・平成28年2月24日発行

小学校低学年

【自由読書の部】



【指定読書の部】



小学校高学年

【自由読書の部】



【指定読書の部】



中学校

【自由読書の部】



【指定読書の部】



平成27年度
群馬県図書館協会会報
NO. 10 (平28. 3. 31)

編集：発行 群馬県図書館協会

事務局 前橋市日吉町1-9-1
群馬県立図書館内

TEL 027 (231) 3336
FAX 027 (235) 4196